



佐野厚生農業協同組合連合会

地域医療支援病院 佐野厚生総合病院 地域医療連携室たより



病院長 村上円人

連携医療機関の皆様、こんにちは。病院長の村上でございます。

11月になり日本は新型コロナウイルス感染症の第8波に突入しました。当院内科病棟においてクラスターが発生し、通常急性期医療の制限を余儀なくされ、地域の皆様大変ご迷惑をおかけしており、深くお詫び申し上げます。12月1日から、職員に対して行動制限強化週間を設けて、家族以外の人との会食、スポーツ、カラオケ等の感染リスクのある行動をしばらく中止して、事態の収束をめざします。

11月に心臓カテーテル機器を更新し、キヤノンの最高機種であるAlphenix Biplaneを導入し順調に稼働しております。操作性に優れていることに加え、検査時の被曝量が半減し安全性が高いことが特徴です。また、アブレーションも可能であり、来年度の導入をめざしていきます。

9月に急性期病院へ転換後、回復期患者の早期退院対策が当院の大きな課題です。そこで訪問診療科を立ち上げ、東澤俊彦先生を中心に活動が始まりました。また、回復期患者の転院を円滑にするために、地域医療連携室長に上原淳先生を任命し体制を強化しました。なお、市内では特に佐野メディカルセンター佐野市民病院への転院数が増加しており感謝申し上げます。市外では、T連携病院の拡大に加えて、足利市医師会や館林市邑楽郡医師会等との連携強化をめざしてまいります。

当院が地域から求められている役割である「急性期・超急性期医療」を柱に、今後も地域ニーズに応え頼られる広域型病院を目指します。行政、医師会、地域の医療機関と連携し、連携医療機関の皆様とコミュニケーションを密にして、力を合わせて頑張ってまいります。

【対応時間】

地域医療連携室

- ・ 月曜～金曜 8:30～19:00 0283-22-5222 (代表)
- ・ 第1・3・5土曜 8:30～12:45

FAX 0283-22-8982

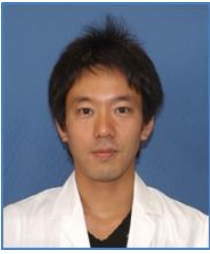
E-mail: renkei@jasanoko.or.jp<http://jasanoko.or.jp/link-up.html>

➤ 上記以外は救急センター対応

0283-22-5222 (病院代表)

地域医療連携室 室長 就任挨拶

『目と耳』を使った地域連携



令和4年11月1日付けで佐野厚生総合病院地域医療連携室室長に就任致しました上原 淳と申します。

当院は本年9月に回復期・療養病床を閉鎖し、新たに急性期病床を増床、ケア・ミックス型から急性期病院へと変革を遂げました。そのため、地域医療における当院の役割が明確化され、より一層周辺医療機関の皆様と『顔が見える』形での情報共有や連携の必要性が高くなり、新たな地域医療連携室が発足した次第です。

私は大学卒業後、大学の関連病院であった当院で初期後期研修を行い、済生会宇都宮病院等栃木県内の病院での勤務を経て、本年4月に再度当院へ戻って参りました。

正直、東京生まれ東京育ちの私には栃木県を中心とした北関東は縁もゆかりもなく、15年以上前、国家試験終了後に同級生とトラックに荷物を詰め込んでこちらにやってくる際、東北道の久喜インターを過ぎたあたりで一気に田園風景が広がるのを目の当たりにし、心の中で『絶対2年後には東京のネオン街に戻るんだ』と決意したのを覚えております。

そんな私がなぜその後この地域で家族をもうけてこの地域に住み着くことになったかと申しますと、自分にこの地域の風土・人間性が合ったというのと、医師会を中心とした多くの先生方との出会いがあったからです。研修医の頃、当院岡村副院長に誘っていただいた足利佐野市医師会の野球部に所属することになり、公私ともにそれまで一步距離を置いていた医師会の先生方との距離が縮まり、仕事面においても地域医療における中核病院での役割を意識するようになりました。また、10年以上の活動の中で、栃木県南地区にとどまらず、その他の地区の先生方とも野球や勉強会等を通じて『顔が見える』ようになり、さらにはご縁もあって医師会野球部の先生の病院でも勤務させていただくこととなり、特にコロナ禍ということもあって、医師会活動の大変さを痛感させていただきました。

そういったご縁の中で、今回当院の変革期に新たな地域医療連携室の立ち上げの話があがり、二つ返事で引き受けさせていただいた次第です。当院ではできる限りご紹介患者様の応需を『100%』に近づけることを目標としています。それには私の気持ちや当院の考えだけでは実現困難で、いろいろなハードルを越えなくてははいけないこともわかっております。それでも少しでも目標に近づくために、『顔が見える』連携と先生方のご意見に『耳』を傾けフィードバックする体制をこれから築いていきたいと思っております。是非直接当院へのご意見やご質問等いただけたら幸いです。大学ではサッカー部に所属しておりましたので、時に『足』を使って直接先生方の医療機関にお話を伺いに訪問させていただけたらとも思っております。これからよろしくお願ひ申し上げます。

訪問診療科 本格稼働

2022年9月に当院がケアミックス型病院から急性期病院への転換に伴い、訪問診療科が開設されました。11月にはユニフォームも車両も一新して本格稼働となっております。現在は限られた範囲や対象での診療を展開中ですが、徐々に拡大できるように努める所存です。

市民の皆様が安心して自宅での療養生活を過ごせますように、訪問診療科の医療スタッフがお伺いいたします。



認知症ケアチーム

認知症ケアチームが始動します！！



超高齢社会の到来により、認知症を合併して入院される方が増加しています。

当チームは、質の高い医療サービスの提供と、患者・家族が安心して療養生活を送るサポートをしております。



老人看護専門
看護師

村田 佑介

老人看護専門看護師は、高齢者への健康な状態での生活を維持するための予防的見地に立った活動や、身体・こころの老化とせん妄などの意識精神障害や低栄養・脱水・床ずれなどに早期に介入し、早期回復をはかる役割を担います。そして、「高齢者の意思を尊重し、最後までその人らしく過ごせる」ことを支援することが重要な役割と考えています。

寝たきりの高齢者や認知症が重度になると、思いをうまく表現できなくなっていくます。せん妄で大声をあげることや認知症の方が同じことを繰り返し尋ねる言動には、その人なりの理由があります。高齢者から発せられる微弱な変化を「意思」として捉えて、表情やその言葉の裏にある感情や理由を推し量ります。感じ取ったことを本人に伝えて意思を確認し、必要となる支援を導き出しています。

当院では、せん妄や認知症の方をサポートしていくために認知症ケアチームを発足し活動を始めました。高齢者と家族の方を支えるためには、当院だけではなく地域の開業医の皆様や調剤薬局、訪問看護ステーション、包括支援センター、居宅介護支援事業所等の多くの皆様との協働が必要不可欠です。引き続きのご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

Meet the Professor Seminar ~in佐野

11月29日、慶應義塾大学常任理事、外科学教室教授の北川雄光先生にご登壇いただき、『DX時代における病院のあり方』というテーマでご講演いただきました。会場53名、オンライン22名の総数75名の参加をいただき、大盛会となりました。

慶應病院は厚労省からAIホスピタルのモデル病院に認定され、北川先生のリーダーシップのもと、数々のAIによるシステム構築に取り組み、AI化は急速に進んでおります。その具体的な多数の取り組みについて明解にプレゼンいただき、DX時代の病院像を想像することができました。

北川先生リーダーシップのもと、DX時代へ向けての慶應義塾大学病院の発展がとても楽しみです。当院の外科チームもエンパワーされ、実りある、貴重な講演会となりました。



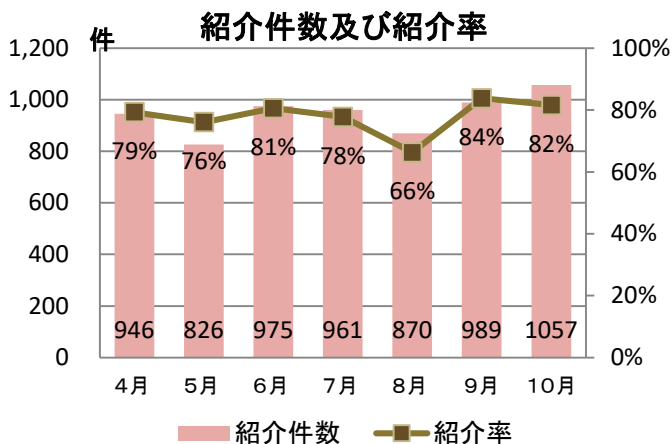
Dr. Yuko Kitagawa

executive director of Keio University

Professor of Dept. of Surgery, Keio University School of Medicine

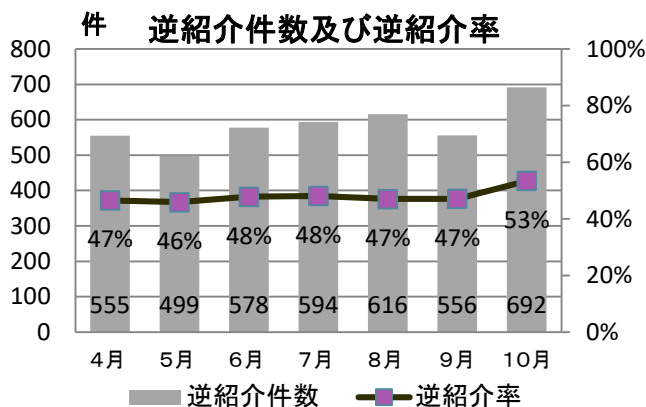
当院は、連携登録医療機関や行政との連携を大切にして、今後も佐野市唯一の二次救急輪番病院、地域医療支援病院として「急性期・高度急性期医療」を担っていきます。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

2022年度 月別紹介・逆紹介率



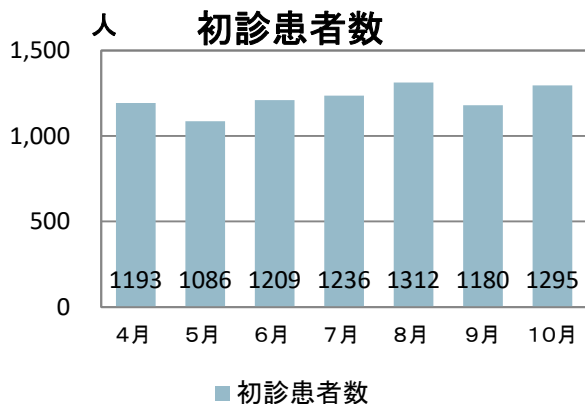
連携登録医療機関数

医療機関数		歯科医療機関数	
佐野地区	72	佐野地区	56
足利地区	42	足利地区	26
栃木・小山地区	28	栃木地区	1
館林・邑楽地区	45	館林・邑楽地区	—
太田	5	太田	—
合計	192	合計	83
2022年12月1日現在		275施設	



T連携・登録医療機関数

医療機関数	
館林・邑楽地区	2
足利市	1
2022年12月1日現在	



地域医療連携室から一言

今年もあっという間に12月・・・寒い季節が苦手なK・Yです。今では太ってしまった私も、若い頃は、時間があるとスノーボードをしに雪山へ行ったものです。お昼も食わずに夕方まで滑っていた頃を思い出します。今も、行きたい気持ちはあるものの、骨折が恐くて行けていませんが・・・。

今年も皆様にはたくさんご支援いただき感謝申し上げます。来年も何卒よろしくお願い申し上げます。